



萌木 12月号



調布市立第七中学校

校長 小坂 力

令和2年12月8日発行

～自尊・立志・感動～

「かけがえのない命」について

校長 小坂 力

12月は調布市が設定する「いのちと心の教育月間」です。

そこで、全校朝礼で、次のような話をしました。

おはようございます。

まず、報告ですが12月2日に増田先生のお家に女の子の赤ちゃんが産まれました。

そして少し前ですが、加藤先生のお家にも8月30日に女の子の赤ちゃんが産まれました。

今月は調布市が定めた「いのちと心の教育月間」ですので、今日は「かけがえのない命」についてお話をします。

今お話した先生たちに赤ちゃんの話を振るととっても嬉しそうに幸せそうにお子さんの話をしてくれます。それはどの先生も同じで、お子さんの話を振るとみんな笑顔で話をしてくれます。その時「親にとって保護者にとって子供ってほんとに大切な存在なんだな」というも感じます。

さて、調布市立第七中学校の生徒の在籍数は423です。この数は「命の数」です。先生にとって、この一つ一つの命は本当に大切なかけがえのない存在です。なぜなら、みなさんが大切に育てられ、無条件に愛された保護者の方々からこの命をお預かりしているからです。

世界には70憶人以上の人が暮らしています。その中のたったの423の命がこの七中にいることは奇跡以外の何物でもないと思っています。

ですから、先生たちはみなさん一人一人を大切にします。

また、先日2年生の国語の授業を見ていたら話し合い活動である生徒が「人間は幸せになるために生まれてきた」と言っていました。私もそう思います。みなさんも自分の命そのもの、自分の存在そのものを大切にして自分自身の幸せを求めて、人生を大切に、そして丁寧に生きていってほしいと思っています。

以上のような話をしましたが、私が伝えたかったことは、「自分自身の命・そして人生を大切にしたい」ということです。

子供達には、他の誰にもなれない自分自身の幸せを求めてほしいと願っています。

小学校へ出前授業を行いました。

八雲台小学校の6年生を対象に出前授業を行いました。授業者の自己紹介をもとにして、5文からなる自己紹介をペアに伝える活動を目指しました。音から文字への移行をスムーズにできるように、ICTを活用しました。コミュニケーションのために、非言語の技術を工夫することの大切さに気付くように指導しました。以下、生徒の振り返りシートの一例を挙げます。「コミュニケーションは、うなづきやジェスチャー、笑顔が大切だとわかった。これなら英語も不安じゃないと思います。英語を話すことが楽しかったです。」

英語科 主任教諭 川邊耕太



国語科 教諭 宮寄美紀

11/13(金) 2~4時間目に柏野小学校6年生を対象に出前授業を行いました。授業内容は、次の通りです。

・「中学校の国語の授業」「調布七中について」の説明を行いました。(パワーポイント)

・短歌の作成を行いました。短歌については小学校で軽く学習をしているということをお聞きしました。そこでの基礎知識を活用し、今回は、自分の席の隣りの人とペアになり、1つの短歌を作り上げ、画用紙に清書する作業を行いました。じゃんけんをし、勝った人は「五七五(上の句)」を作り、負けた人は「七七(下の句)」を作りました。また、上の句の内容は「悲しい内容」を書かせ、下の句の内容は「悲しい内容をカバーする内容」を書かせました。

みんな始めは短歌に対して抵抗感をもつ児童が多いように感じましたが、ペアでの作成に関しては各々でよく取り組むことができました。考える時間を7分程度しか設けられませんでしたでしたが、ほとんどの児童が作成することができました。



おもしろ実験教室を行いました。

11月16日(月)今年度第一回目のおもしろ実験教室を行いました。この活動は地域学校協働本部が主催し、生徒の参加を募って行うものです。毎回、楽しい実験や観察を行ってきましたが、今回は、15名ほどの生徒と地域の方が参加し、玉ねぎの皮や葛の葉を使って思い思いの布に色を付ける実験を行いました。染色した布はきれいに染まり持ち帰ることができました。



部活動等活動報告

<税の作文コンクール>
武蔵府中税務署長賞

<バドミントン部>
11/2 調布・狛江・府中地区バドミントン新人大会
男子ダブルス 第2位